

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

## 発生予察情報の送付について

病虫害発生予察注意報（第 1 号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

平成 29 年度 病虫害発生予察注意報（第 1 号）

平成 29 年 4 月 13 日  
愛 媛 県

病虫害名 赤かび病

作物 麦類

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生程度 やや多～多
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 子のう胞子の飛散状況は、松山市上難波、西条市丹原ともに 3 月第 6 半旬までは少～やや少で推移していたが、4 月第 2 半旬には松山市上難波では平年を上回り、西条市丹原では平年に比べて少ないものの増加傾向にある（下表参照）。
- (2) 本病の主要な感染時期である開花期は、裸麦では 4 月第 1 半旬まで気温が低かったためやや遅く、11 月下旬以降の播種で 4 月第 2 半旬～4 月第 3 半旬頃となるほ場が多いとみられる。
- (3) 1 か月予報（4 月 6 日発表）では、気温は高く、降水量は平年並か多いとされ、4 月 12 日～4 月 18 日の週間天気予報では、気温は週の後半には平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されていることから、発病には助長的である。

## 4 防除上の注意

- (1) 本病が最も感染（一次感染）しやすい時期は、開花期～開花 10 日頃である。この時期に子のう胞子の飛散量が増加し、降雨と温暖（気温 15℃以上）条件により感染・発病しやすくなるため、開花期防除は必ず実施する。
- (2) 乳熟期以降（4 月中旬～下旬）も多雨と温暖で経過すると二次感染が助長され、発病程度が高まるため、開花期防除を行ったほ場においても、1 回目の散布から 7～10 日後に追加防除を実施する。
- (3) 防除薬剤は、トップジンM剤、ワークアップ剤、シルバキュア剤等を使用する。なお、トップジンM粉剤 DL、同水和剤は、麦類（小麦を除く）では出穂期以降 1 回以内、小麦で出穂期以降 2 回以内の使用となっているので使用回数に注意する（スミトップ粉剤は総回数 1 回）。薬剤散布に当たっては使用基準を遵守し、周辺作物に飛散しないよう注意する。

表 麦類赤かび病菌の子のう胞子飛散状況（単位：かへーグラス 1.8cm×1.8cm×2 枚分の胞子個数）

調査場所		3 月			4 月	
		第 4 半旬	第 5 半旬	第 6 半旬	第 1 半旬	第 2 半旬
松山市上難波	平成 29 年	3	10	25	30	71
	平 年	30.6	24.0	39.5	31.6	34.6
西条市丹原	平成 29 年	4	6	12	13	18
	平 年	15.5	14.4	17.8	25.3	30.3

注) 明日山考案による胞子採集器を麦栽培圃場内に設置。

平年値は、平成 19～28 年の調査結果より算出。西条市は 19 年が西条市小松、20 年以降は西条市丹原に設置。

◎子のう胞子飛散状況は病虫害防除所ホームページの「調査データ」に掲載しています。